

ぶんすいれい
吉野川の分水嶺を歩く！



陳々森の尾根から見たミツバツツジと高知市方面

こんにちは。山登り好きの「岳」です。

山好きな私が吉野川の分水嶺を歩きながら、読者の皆様に吉野川流域の山々の素晴らしさと現状を紹介したいと思います。

第10回は、高知県高知市の工石山くいしやまから西へ陣ヶ森じんがもり、戸中山とちゅうやま、旧大森トンネルつっじょうせん、筒上山いわくろやま、分水嶺最西端の岩黒山までを紹介します。

4月7日は高知県側の分水嶺の工石山から国道439号線のいの町と土佐町の境にある郷ノ峰峠までを歩きました。

この日の天気は冬型の気圧配置で、気温が低く、4月になったというのに、時々雪が散る空模様でとても寒い日でした。

工石山は、高知市を流れる鏡川の源流域であり、県立自然公園で全国初の自然休養林(レクリエーションの森)の指定も受け、親しまれている山です。登山道は整備され、途中には、昭和38年の台風9号で植林



根曲り杉



天然ヒノキの風倒根



間もない杉がなぎ倒されその後成長した「根曲り杉」や推定樹齢 200 年の天然ヒノキの風倒根があり、台風の猛威と木の生命力を感じました。山頂には展望台兼東屋があり、高知市が見渡せます。工石山頂から郷ノ峰峠までの道中は、雪が散る中、所々ササ原を漕ぎ、風倒木を乗り越えながらの山行となりましたが、ミツバツツジやアケボノツツジが季節外れの寒さに耐え綺麗に咲いて春を感じました。



工石山山頂の展望台兼東屋



工石山山頂から見た高知市



雪の散る中撮影する岳



風倒木を乗り越えていく岳



アケボノツツジ



ミツバツツジ



バイカオウレン



ヤマヤナギ



トサミズキ



シハイスミレ

4月21日は高知県土佐町といの町境の国道439号線上にある郷ノ峰峠から陣ヶ森を経由して、いの町程野を通っている林道の峠まで歩きました。

天候は4月初めの山行と異なって夏日の予想で、暑い中の山行となりました。

郷ノ峰峠から入山し、分水嶺上をササやヤブを漕ぎながら陣ヶ森山頂に到着しました。陣ヶ森は四国百名山に選定され、山名は、標高の割には眺望がきくこの山を戦略上の拠点とすべく、多くの領主が周辺で陣取り合戦を演じてきたことに由来するそうです。山頂はササや木が生えており、見渡しは良くありませんでしたが、東屋やベンチがありゆっくりと休むことができます。



陣ヶ森山頂にササ原の中から現れる岳（岳を探せ！）

陣ヶ森山頂から西方面のいの町川窪登山口方面にかけて、尾根沿いに約5キロの遊歩道が整備され、遊歩道の途中には丸山広場も整備されています。この一帯は全国でも有数の馬酔木^{あせび}群生地であり、3月から4月に綺麗に咲いています。

陣ヶ森の尾根沿いは、所々見渡しのいいところもあり、高知市方面の雪光山(国見山)まで綺麗に見え、ミツバツツジも咲いていました。

尾根の途中から北側の分水嶺に分岐し、そこからは約5時間30分ササ漕ぎヤブ漕ぎの連続で何とか程野の峠に到着しました。今回は、今までのササ漕ぎヤブ漕ぎの最長時間記録となりました。



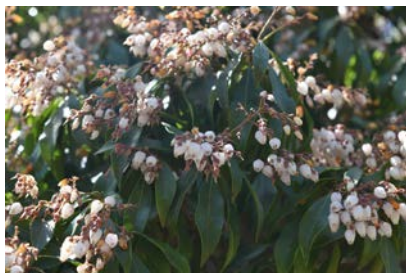
丸山広場



整備された遊歩道を歩く岳



陣ヶ森の尾根から見た高知市方面



馬酔木(アセビ)



ショウショウバカマ



ササ原を漕いでいく

5月5日はいの町程野の林道の峠から旧大森トンネルまで歩きました。

天気は良く、遠くまで見渡せ、気温は少し暑かったですが良い登山日和でした。

いの町程野の峠から入山し、尾根までは植林沿いの道を登り、尾根に登った後は、戸中山までは、噂の藪レベルⅣの道を時速1kmぐらいでササを漕ぎながら、尾根に出た後から約2時間かけて戸中山山頂に到着しました。

戸中山から西側の尾根は国土調査などでササが刈られていたため、比較的通りやすくなっていました。途中の尾根からは、平家平から瓶ヶ森・筒上山・手箱山、そこから続く分水嶺が綺麗に見えました。分水嶺向こうには石鎚山も見えました。



植林沿いの道

(参考) 藪の種類

登山家の細貝栄氏が藪のグレードを設定してしている。(限りなき山行」より)

Ⅰ級：自然にできた踏み跡で歩きやすい。

Ⅱ級：両手を使い始める

Ⅲ級：本格的なヤブ

Ⅳ級：非常にきつく、ヤブを漕ぐ気力を失うようなところ

Ⅴ級：自分が今までに体験した中で最もひどい部類のヤブでその中に入ると身動きができなくなるようなところ

Ⅵ級：自分がいまだかつて体験したこともないような猛烈なヤブ



藪レベルⅣのササ原



藪漕ぎの合間に開けた場所で息を取り戻す岳



オンツツジ



戸中山から西側の道



下山場所の旧大森トンネル（廃止）



戸中山付近から見た分水嶺

日は廻りますが、4月29日は旧大森トンネル付近から奥南川林道を進み、大森川ダム湖畔を抜けて、弘沢林道へと入り尾根に上がったところの槇峠から入山しました。

槇峠は高知県の町本川と仁淀川町池川の境で、そこから旧大森トンネルまで歩きました。

尾根沿いは木も生えていて、見晴らしはあまりよくありませんでした。しかし、所々を見渡せる場所があり、南側は仁淀川流域の五在所山、黒森山さらにその向こうに故郷の山の虚空蔵山、蟠蛇森まで見えました。

道中、ホンシャクナゲが綺麗に咲いていました。



奥南川林道から見た大森川ダム



吉野川の分水嶺から見た仁淀川流域の山々



弘沢林道の槇峠から入山



シャクナゲの蕾



ホンシャクナゲ



オンツツジ

5月4日は吉野川の分水嶺の最西端岩黒山から筒上山を経て、手箱越から大森川の南嶺を下って弘沢林道の峠まで歩きました。



シコクテンナンショウ



ホウチャクソウ

天気は寒波が来ていたこともあり、出発地点の土小屋では0度に近い気温で、道沿いには前の晩に降ったと思われる雪が残っていました。

石鎚山の登山口である土小屋にある岩黒山登山口から岩黒山を目指しました。道中アケボノツツジが咲いていましたが、この寒波で寒そうでした。岩黒山は四国百名山に選定されています。岩黒山登頂後、丸滝小屋まで下りると、そこではヒカゲツツジが咲いていました。



岩黒山登山口

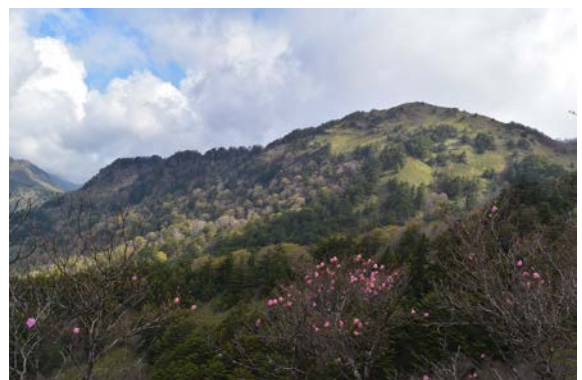
その後筒上山に登り、筒上山からは北方面に瓶ヶ森、南方向に雨ヶ森が見えました。筒上山も四国百名山に選定され、山岳修験の山であり、筒上山直下の手箱越付近には立派な石垣造りの大峰宗覚心寺派の修行道場もあります。手箱越から大森川南嶺の分水嶺の尾根に分岐し、尾根を槇峠まで下りました。この尾根は岩の多い細尾根となっており、ホンシャクナゲとヒカゲツツジの群生地を進むのに苦労しました。所々で公園木として有名なコウヤマキの自生も見られました。



登山道の脇には薄らと季節外れの雪



岩黒山山頂



アケボノツツジと岩黒山



筒上山の西側の山頂の権現社



筒上山の東側の山頂の大山祇神社



筒上山の鎖場



筒上山から見た岩黒山・瓶ヶ森



筒上山から見た手箱山



筒上山と大峰宗覚心寺派の修行道場



立派な石垣の上に修行道場がある



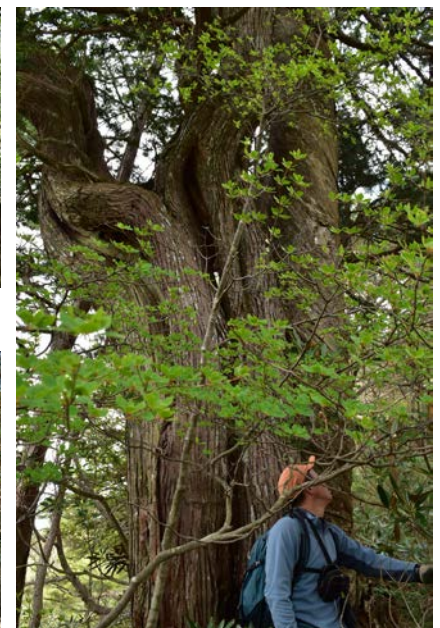
手箱越から見た分水嶺と雨ヶ森



斜面が急な細尾根



所々岩場があり岩場を迂回する



大きなコウヤマキの木



ヒカゲツツジ



ホンシャクナゲ

◇今回歩いた距離 61.0km

◇今回歩いた分水嶺の距離 48.9km

今まで歩いた距離 267.7km / 全長約 402km

◇分水嶺制覇まで、残り約 134km